

令和元年10月3日

長岡京市議会
議長 福島和人様

建設水道常任委員会
委員長 浜野利夫

行政視察の実施について（報告）

先般実施しました当委員会の行政視察について、所感を添え下記のとおり報告します。

記

1. 日時 令和元年7月11日（木）～7月12日（金）
2. 視察先 兵庫県姫路市 （7月11日）
広島県廿日市市 （7月12日）
3. 視察者 委員長 浜野利夫
副委員長 富田達也
委員 田村直義 三木常照
進藤裕之 小野洋史
八木浩 山本智
4. 視察内容（詳細については別紙のとおり）
『兵庫県姫路市』
 1. 連続立体交差事業との関わりについて
 - (1) 駅前土地区画整理事業の観点から
 - ①事業概要について
 - ②県との関わり等について
 - ③今後の課題について
 - (2) 駅前街路整備事業の観点から
 - ①事業概要について
 - ②県との関わり等について
 - ③今後の課題について
『広島県廿日市市』
 1. 公共交通について
 - (1) 廿日市市地域公共交通網形成計画について
 - ①沿岸部における路線バスと自主運行バスとの役割分担

- ②市自主運行路線の設定に際して住民意向の反映方法
- ③モビリティ・マネジメントの実施内容

(2) 廿日市市バス路線等再編方針について

- ①沿岸部の路線再編方針
- ②今後の課題

5. 所 感 別紙のとおり

兵庫県姫路市（7月11日）

視察内容

- ・世界文化遺産・国宝姫路城や姫路駅を中心に市街地が広がる、人口約53万人の中核都市の都心部まちづくりとして、平成元年の「国鉄高架化基本構想」の発表から始まり、「播磨都市圏総合交通体系策定委員会」が設置され、「姫路駅周辺地区総合整備事業」として、キャストィ21（JR山陽本線等立体交差事業・姫路駅周辺土地区画整理事業・関連道路事業からなる姫路駅周辺地区総合整備事業）が着手され、平成23年度に完了となった。
- ・JR山陽本線高架切り替えを控え、「姫路市都心部まちづくり構想」を策定し、エントランスゾーン・コアゾーン・イベントゾーンのゾーン区分による整備計画に対し、商店連合会などから複数の代替案が提示される経過から、平成20年に「姫路駅北駅前広場整備推進会議」が立ち上がり、官民協働の取り組みとして、「市民フォーラム」「姫路市商店街連合会案」などを通して、平成27年に姫路城大天守保存修理完成に併せて完成した。

所感

世界文化遺産の姫路城と玄関口となる姫路駅に「新しい駅をつくる」との目標へ、官民協働で「姫路駅北駅前広場整備推進会議」を立ち上げて、17回の開催で、基本コンセプト、基本レイアウトの決定に至り、その間も、様々なイベントを開催しながら平成28年の完成に至る官民協働の手法などは、本市の「阪急長天駅周辺整備計画」に生かすべき点が多々あったと言える。

広島県廿日市市（7月12日）

視察内容

- ・平成17年度の合併で、489km²になったものの、可住地の面積が70km²で沿岸部に集中し、人口減や少子高齢化の進行で、民間バス路線の経営難・市自主運行バス等の財政支出増などの背景のもと、平成28年度から令和4年度までの7年間の「廿日市市地域公共交通網形成計画」を策定し、実施状況に応じて適宜の見直しで進んでいる。
- ・計画に基づいて、高齢化の進展・地域を取り巻く環境の変化から通院・買い物など日常生活における移動について、地域の実情に合った移動手段の確保と多様化した住民ニーズへの対応をめざして、全市域が対象ながら、沿岸部・中山間部・島しょ部の3つに区分して施策の推進を行っている。
- ・民間路線と市自主運行路線の役割分担で、地域間を結ぶ路線の維持強化、適切な財政支出の中で、通勤通学・高齢者の利用促進・観光客の公共交通利用など重点ポイントに焦点を置きながら計画の実行を行っている。

所感

合併で拡大化した市域のもとで、地域の実情を把握しながら、住民のニーズに応えるネットワークづくりを民間事業者と連携・共存で推進していることや効果的・効率的運行で財政支出を抑制できるように、通勤・通学を取り込むダイヤ設定、高齢者の免許返納支援、乗り継ぎ利便性向上、交通系ICカードシステム導入など本市でも取り入れられる学ぶべきいくつかの視点も参考になった。